
出来なければ僕は死ぬ。

しちか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

出来なければ僕は死ぬ。

【Nコード】

N0954Z

【作者名】

しちか

【あらすじ】

始まりを告げるのは、携帯に届く一通のメール。

終わりを告げるのは、それが終わったその瞬間。

人は生きるためなら、死なないためなら、終わりをたくないためなら、最期を迎えたくないなら。

人はあがくのだろうか。

どんなことをしても。

どんなことがあっても。

そのあとに何が待っていたとしても。

差出不明のメール

始まりを告げるのは、携帯に届く一通のメール。
終わりを告げるのは、それが終わったその瞬間。

人は生きるためなら、死なないためなら、終わりたくないためなら、最期を迎えたくないなら。

人はあがくのだろうか。

どんなことをしても。

どんなことがあっても。

そのあとに何が待っていたとしても。

雪はまだ降っていないというのに、肌寒い季節になった。

いや、山の方に住んでいる人の話では、もう雪が降ったとか。

十二月一日。木曜日。

いつもと変わらず、いつも通り、いつものように支度をして、家を出る。

高校に入って初めての冬。

冬なんて、これまでの人生で十六回も経験しているわけだけど。

高校へと進学して、初めての冬は、どこか新鮮味があった。

冬と言っても、景色はさほど変わらない。

変わったのは、木の枝から葉っぱが消えた程度。

そして、思わず体が震えてしまう、この寒さ。

この程度の変化だけだけど、それだけでも、冬が来たことを知るには十分だ。

僕が通う学校への道の前には、軽い坂がある。

軽い、と言っても、歩くのはなかなかしんどい。

傾斜は大きくはない。しかし、距離が長い。

だから、この坂を走ることと体力を付けようとする運動部も多数いる。

ゆっくり歩けば問題ない。

けれど、ちよつとだけペースを上げて歩いてみると、少し息が切れる。

そんな坂を、僕はゆっくりと歩いていく。

下駄箱へは十分程。

靴を学校指定の上履きに履き替え、教室へと向かう。

一年生の教室は校舎の三階。一番上。

坂を歩いてきて、多少疲れているというのに、さらに階段を上らなくてはいけない。

正直疲れるが、これをほぼ毎日。

段々と、慣れてはきた。

教室へと入る。

まだ誰も来ていない。

現在時刻は七時半。朝のホームルームが始まるのは八時半。

かなり早く着いてしまったが、いつものこと。

家にいてもしょうがないので、このくらいの時間には、もう学校にいるようにしている。

することはある。

勉強したり、最近買った本を読んだり、最近買ったゲームをした
り。

窓側の一番前の席、自分の席へと座る。

一番前だから、授業中居眠りをしたり、隠れて弁当を食べたりは、
やりにくい。

まあ、したことはないけど。

さて、今日は何をしようか。

授業中、ちょっと分からないことがあったし、勉強でもしよう。

——そう、思った時だった。

携帯に着信が入った。

これはメールか。

こんな朝早くからメールということは、クラスの誰かが、今日の時間割を知りたい、とでもメールしてきたのだろう。

今日は先生の出張の都合で、時間割にちょっとだけ変更があるらしいから。

そう思いながら、携帯を開く。

新着メール一件。

差出人——未記入。

未記入？

何も書かれていない？

たとえ、送られてきたアドレスを知らなくても、そのアドレスは表示されるはずだ。

それなのに……、何も書かれていない。

おかしいと思いながら。

そのメールに恐怖を覚えながら。

開いてはいけない、と、頭では分かっているながら。

僕は、好奇心でそれを開いてしまった。

件名：？ 1 難易度 E

本文：自身の一つ後ろにある机を 蹴れ

いたずら。

——と、思ったかったが、本当にそうか？

差出人が書かれていないメール、これが本当にいたずらか？
怖くなる。

自分は今、夢を見ているんだと思いたくなつたが、ちゃんと意識はある。

頬をつねる。痛い。

問題は、このメールの内容。

これを……、やれ、ということか？

誰かがどこから見ているのかと、周りを見る。

教室の扉から顔を出し、廊下を覗く。

他の教室へと入っていく生徒が一人いただけで、他には誰もいない。

その生徒も、廊下を見て十秒くらい経つた後に階段から現れたので、その生徒が僕の様子を面白おかしく見ていた、なんてことはおそくない。

次に、窓から校庭を見渡す。

誰もいない。

監視カメラが何か……は、さすがに考えすぎだ。

高校生のいたずらに、そんな高価な物が使われるとはさすがに考えにくい。

やはりこのメールは、いたずらではない？

たとえば、これに書かれてある内容をやらなければ、なんらかの罰が起こる場合、これが出るのは、誰もいない今だけ。

やってみよう。

やったところで、そのあと直せば問題はない。

今は、これを（やったらどうなるか）が知りたいのだ。

蹴った。

僕の後ろにあった机は、その後ろの机も巻き込んで、横に倒れた。

——が、何も起こらない。

やっぱりただのいたずらか、そう思った瞬間。

携帯に着信が入る。

メールだ。

急いでメールの内容を確認する。

やはり差出人の名前は未記入。

件名：？１ 難易度E

本文：成功

成功？

この成功の意味を深く考えたかったが、机を倒したまま誰かが来たら面倒なので、机を戻す。

戻して少し経った後、電車を通っている生徒が一気に教室へと入ってきた。

最初に戻しておいてよかったと思いながら、授業の準備をして、メールのことなどすっかり忘れ、朝やろうと思っていた勉強の続きを始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0954z/>

出来なければ僕は死ぬ。

2011年12月3日17時59分発行